

第一百項

連名公書及議定書

0866

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

大臣

積

外務省
九月



電報
伊東司令部長
九月十日
本村中佐

本日調印終了
西公使
明日六日費足
九日山崎閣
出帆
各々
山海閣
道見送了
十月迄
帰京スル
各々
取御届下し候

海軍

0867

連合シ且皇室ガ其ノ宮城ヨリ發シタル命令ヲ奉セル官兵ニ依テ先ツ行ハレ
タリ是レ恰モ清國政府カ其ノ在外代表者ヲシテ公使館ノ安全ヲ保護スル旨
ヲ公然宣言セシメタル時ニ係ル

第三 六月十一日日本國公使館書記生杉山氏ハ其ノ公然タル使命執行中城
門ニ於テ官兵ノ爲ニ殺害セラレタリ
北京及諸處ニ於テ外國人ハ拳匪並ニ官兵ノ爲ニ或ハ殺害セラレ或ハ殘虐セ
ラレ或ハ攻撃セラレタリ而シテ其ノ難ヲ免レタルハ唯其ノ決死ノ抵抗ニ依
リタルニシテ又外國人ノ建造物ハ掠奪セラレ若ハ破壞セラレタリ

第四 外國人ノ埋葬地ハ汚濁セラレ其ノ墳墓ハ發掘セラレ骸骨ハ散棄セラ
レタリ其ノ北京ニ在ルモノヲ特ニ甚シトス
此等事變ハ諸外國ヲシテ其ノ代表者及其ノ國民ノ生命ヲ保護シ且秩序ヲ恢
復スルカ爲ニ其ノ軍隊ヲ清國ニ派遣セシムルニ至レリ而シテ聯合兵ハ北京
ニ進行スルニ方リ清國兵ノ抵抗ニ遭ヒ己ムヲ得スカヲ以テ之ヲ壓服シタリ

清國ハ今既ニ其ノ責任ヲ認識シ其ノ悔悟ヲ表彰シ此ノ紛亂ニ由リ生シタル
事局ヲ終結スルノ希望ヲ聲明シタルカ故ニ列國ハ既犯ノ罪惡ヲ贖贖シ其ノ
再發ヲ防遏スル爲メ必須ニ不可缺ト判定シタル左記ノ不可改易ノ條件ヲ以テ
清國ノ請求ヲ容ルルコトニ決定セリ

第一條 (甲) 故獨逸國公使明爾「フオン」ケツテレル閣下虐殺ノ件ニ關シ清國皇帝
陛下並ニ清國政府ノ惋惜ノ意ヲ表彰スル爲メ皇族ノ一人ヲ以テ首任トスル
特命使節ヲ伯林ニ派遣スルコト

(乙) 右虐殺ニ關シ死者ノ官位ニ適合シ且羅何語、獨國語及清國語ヲ以テ
清國皇帝陛下ノ惋惜ヲ表スルノ銘誌ヲ有スル紀念碑ヲ虐殺ノ地點ニ建設ス
ルコト

第二條 (甲) 千九百年九月二十五日ノ上諭中ニ指名セラレタル犯罪者並ニ列國代
表者ニ於テ今後指示スヘキ犯罪者ニ對シ其ノ各自ノ罪惡ニ該當スル最嚴刑
ヲ科スルコト

(乙) 外國人ノ虐殺セラレ若ハ虐待セラレタル各市府ニ於テハ五箇年間一
切ノ科擧ヲ停止スルコト

第三條 日本國公使館書記生杉山氏ノ虐殺ニ對シ清國政府ハ日本國政府ニ向ヒ名譽
アル補償ヲ爲スヘキコト

第四條 清國政府ハ外國若ハ各國共同墓地ニシテ汚濁セラレ又ハ其ノ所在墳墓ノ破
壞セラレタルモノニハ各該罪ノ紀念碑ヲ建設スルコト

第五條 列國ノ協定スヘキ條件ニ從ヒ兵器及專ラ兵器彈藥ノ製造ニ使用セラルル材

料ノ輸入ヲ禁止スルコト
第六條 (甲) 國家團體及個人並ニ外國人ニ屬シテ居リタルモノハ故テ以テ轉讓
ノ事變ノ間ニ其ノ身體若ハ財產ニ損害ヲ蒙リタル清國人ニ對シ公平ナル賠
償ヲ爲スコト

(乙) 清國ハ債金ノ支拂並ニ國債ノ使用ヲ保證セムカ爲ニ列國ニ於テ容認
セラレヘキ財政上ノ措置ヲ執ルヘキコト

第七條 列國ハ各其ノ公使館ノ爲ニ常置護衛兵ヲ組織シ且公使館所在區域ヲ防禦ノ
狀態ニ置クノ權利ヲ有シ清國人ハ右區域内ニ住居ノ權利ヲ有セサルコト

第八條 大沽砲臺並ニ北京ト海濱間ノ自由交通ヲ阻礙シ得ヘキ諸砲臺ヲ削平スルコ
ト

第九條 首都海濱間ノ自由交通ヲ維持セムカ爲ニ列國間ノ協議ヲ以テ決定スヘキ各
地點ヲ軍事的ニ占領スルノ權利アルコト

第十條 (甲) 清國政府ハ左記ノ各項ヲ記載セル詔勅ヲ二箇年間各縣内ニ揭示スヘ
キコト

排外ノ團體ニ加入スルコトヲ永久ニ禁止シ犯ス者ヲ死刑ニ處スルコト
有罪者ニ科シタル刑名ヲ列擧シ其ノ内ニハ外國人カ虐殺セラレ若ハ虐待セ
ラレタル各市府ニ於テ一切ノ科擧ヲ停止シタルコトヲモ包含セシムルコト

(乙) 總督巡撫及各省各地方ノ官吏ハ各其ノ管轄内ニ於ケル秩序ニ對シテ
職責ヲ有スヘキ且排外ノ紛擾ノ再發並ニ其ノ他條約違反ノ事アルニ當リ直
ニ之ヲ鎮定セス又其ノ犯罪者ヲ處罰セサル場合ニハ該官吏ハ直ニ罷免セラ
ルヘキ且新官職ニ任命セラレ若ハ新名譽ヲ享受スルコト能ハサルヘキ旨ヲ
宣言セル上諭ヲ發シ之ヲ全帝國內ニ頒布スヘキコト

第十一條 清國政府ハ外國政府カ有用ト認ムル通商及航海條約ノ修正並ニ通商上ノ關
係ヲ便利ナラシムル爲メ其ノ他ノ通商事項ニ關シ商議スヘキコトヲ約スル
コト

第十二條 清國政府ハ列國ノ指定スル旨趣ニ據リ總理衙門ヲ改革シ且外國代表者ノ謁
見ニ關スル宮廷ノ禮式ヲ變更スヘキコトヲ約スルコト

清國政府カ列國ノ満足スルカ如ク前記ノ條件ニ遵應スル迄ハ下名等ハ聯合
軍隊ノ北京及直隸全省占領ノ終止ヲ豫見セシムル能ハサルコト
千九百年十二月二十二日北京ニ於テ
獨逸國全權委員
ア、ム、シ、ム、(署名)

埃地利洪牙利國全權委員
白耳義國全權委員
西班牙國全權委員
亞米利加合衆國全權委員
佛蘭西國全權委員
大不列顛國全權委員
伊太利國全權委員
日本國全權委員
和蘭國全權委員
露西亞國全權委員

千九百年十二月三十日清國全權委員ヨリ筆頭公使ヘノ來簡
以書翰致啓上候陳者本月三日各國全權大臣ヨリ面交セラレタル公議條約十
二箇條ハ早速本王大臣ヨリ全文漢譯ノ上及電奏候處本月七日ニ於テ六日ノ
電旨ヲ奉セシニ奕劻及李鴻章ノ電文ハ閱悉セリ電奏スル所ノ十二箇條ノ大
綱ハ直ニ照カスヘシ此ヲ欽メヨト有之候ニ付右及御通知候條貴大臣ヨリ各
國全權大臣ヘ御轉報相成度且何レノ日時何レノ場所ニ於テ會談可致哉御取
極メ御回報ヲ煩ハシ度候將又以上ノ各條清國政府ノ允准ヲ經タル上ハ各國
ハ未ダ撤兵セザルノ前ニ於テ再ヒ軍隊ヲ分派シテ各州縣城鎮ニ前往セシメ
ス以テ人心ヲ安シシ和好ヲ敦フセラレンコトヲ本王大臣ハ茲ニ致請求候此
段照會得貴意候敬具

光緒二十六年十一月九日

欽命全權大臣 慶親王
欽差全權大臣 李鴻章

西班牙國全權大臣コロガン閣下

千九百年一月七日筆頭公使ヨリ清國全權委員ヘノ往簡
以書翰致啓上候陳者列國全權委員ハ客歲十二月二十四日ノ會議ニ於テ殿下
及閣下ヨリ該委員等ニ交付セラレタル全權委任狀ノ正實ナルヲ認メタルコ
トヲ及御通知且十二月二十四日及御交付候公文十二箇條ノ全部承諾ノ旨ヲ
宣言セララルル皇帝陛下ノ勅諭ヲ添附セル同月三十日附貴王大臣ノ公文ヲ領
收シタル旨同僚諸氏ノ依頼ニ因リ及御通牒候
列國全權委員等ハ右承諾ノ旨ヲ領シ貴王大臣ノ署名ヲ得シカ爲メ別紙議定
書御送付方本員ニ致依願候又同委員等ハ皇帝ノ御璽ヲ鈐セラレタル勅諭ノ
正本一部ヲ各公使館ニ送付アラシコトヲ致希望候然ルトキハ本員等カ満足
ヲ以テ閱悉シタル勅諭ハ正當ノ形式ヲ備ヘ不可改易ノ條件ハ茲ニ爭フヘカ
ラサルモノト相成本員等ハ貴王大臣ト共ニ該條件ノ實施ニ伴フ細項ノ問題
ヲ調査スルコトヲ得ヘク候
列國全權委員ニ於テハ御璽ヲ鈐シタル勅諭及殿下ト閣下トノ署名アル別紙
議定書ヲ領收致シ候ハハ御請求相成候會合ノ爲ニ成ルヘク近キ時日ヲ選定

官報 第五五四八號

明治三十四年十二月二十八日(第三種郵便物認可)

シテ速ニ可及御通知候貴王大臣ニ於テ提出ヲ要スト信セララルル問題有之候
ハハ同委員等ニ於テ之ニ對スル回答ヲ協定シ得ル爲メ豫メ書面ニテ該問題
ヲ御通知相成以テ時日ノ消失ヲ避ケラルル様致希望候
本員ハ茲ニ殿下及閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具
千九百年一月七日北京ニ於テ
コロガン(署名)

欽命全權大臣 慶親王殿下
欽差全權大臣 李鴻章閣下

千九百年十二月二十四日

獨逸國
埃地利洪牙利國
白耳義國
西班牙國
亞米利加合衆國
佛蘭西國
大不列顛國
伊太利國
日本國
和蘭國
露西亞國

全權委員ハ本王大臣ニ下文ノ公書ヲ提出セリ
(公書ハ前掲ノモノト同一ニ附キ之ヲ省略ス)
本王大臣ハ速ニ此ノ公書ノ全文ヲ皇帝陛下ニ傳奏シ陛下ハ之ヲ親閱セラレ
タル後左ノ如キ勅諭ヲ發セラレタリ
奕劻及李鴻章ノ電文ハ閱悉セリ奏スル所ノ十二箇條ノ大綱ハ直ニ照カス
ヘシ此ヲ欽メヨ
因テ欽命全權大臣便宜行事管理總理各國事務衙門事務和碩慶親王及欽差全
權大臣便宜行事太子太傅文華殿大學士商務大臣北洋大臣直隸總督部堂一等
肅毅伯李鴻章ハ皇帝陛下ニ共ノ傳奏ヲ託セラレタル十二箇條ヲ全然承諾ス
ルコトヲ宣言ス
右證據トシテ本王大臣ハ此ノ議定書ニ署名シ且本王大臣ハ御璽ヲ鈐シ
タル皇帝陛下ノ勅諭一部ヲ各國全權委員ニ分送ス
文義ニ疑議ヲ生シタル場合ニハ佛文ヲ以テ憑ト爲ス
千九百年一月十六日北京ニ於テ

奕劻(署名)
李鴻章(署名)

七五七

千九百一十一年一月十六日清國全權委員ヨリ帝國公使ヘノ來簡
以書翰致啓上候陳者照カノ上諭ヲ恭錄シ御璽ヲ押捺シテ本王大臣ヨリ各公
使館ヘ一通宛分送シ以テ信實ヲ昭ニスヘキ旨光緒二十六年十一月十七日ニ
於テ御照會ニ接シ候ニ付早速本王大臣ヨリ電奏ニ及ヒタル上茲二十一月六
日ノ諭旨一通ヲ恭錄シ同二十四日御璽ヲ押用シテ及御送付候條御查收相成
度候且前同勅書ニ押捺セラレタル勅命之寶ハ臣下ニ詔諭スルトキ用井ラ
ル御璽ニシテ今回ノ諭旨ニ押捺セラレタル皇帝之寶ハ友邦ニ布告スルトキ
用井ラレル御璽ニ有之候此義併テ聲明致置候此段回答得共意候敬具
光緒二十六年十一月二十六日

欽命全權大臣 慶親王
欽差全權大臣 李鴻章
大日本國全權大臣 小村閣下

國寶

實ニハ滿蒙兩權ノ文字ニテ皇帝之寶トアリ

光緒二十六年十一月六日
旨ヲ奉ス奕劻及李鴻章ノ電文ハ閱悉セリ奏スル所ノ十二箇條ノ大綱ハ直ニ
照カスヘシ此ヲ欽メ
光緒二十六年十一月二十四日
最終議定書

- 獨逸國全權委員
- 奧地利及匈牙利國全權委員
- 白耳義國全權委員
- 西班牙國全權委員
- 亞米利加合衆國全權委員
- 佛蘭西國全權委員
- 大不列顛國全權委員
- 伊太利國全權委員
- 日本國全權委員
- 和蘭國全權委員
- 露西亞國全權委員
- 清國全權委員

- ア、ムン、フ、マン、シ、ヨ、マ、フ、エ、ン、ス、タ、イン、閣下
- 男爵 ニ、ニ、チ、カン、フ、オ、ン、フ、ト、ル、ゼ、ン、閣下
- シ、ニ、ニ、ス、マ、ン、ス、閣下
- ベ、シ、ニ、フ、ゴ、ロ、ガ、ン、閣下
- ダ、ブ、リ、ニ、ダ、ブ、リ、ニ、ロ、ク、ヒ、ル、閣下
- ボ、ル、ボ、ク、閣下
- サ、ー、ア、ー、ネ、ス、ト、サ、ト、ウ、閣下
- 侯爵 サ、ル、ザ、ア、ゴ、ラ、ッ、シ、閣下
- 小 村 壽 太 郎 閣下
- ニ、ム、ニ、ム、ク、ア、ー、ル、閣下
- エ、ム、ニ、ム、ク、ア、ー、ル、閣下

總理外務部 和碩慶親王奕劻閣下

太子太傅文華殿大學士禮部尚書大臣 李鴻章閣下

北洋大臣直隸總督部堂一等毅勇侯 李鴻章閣下

ハ清國カ列國ノ滿足スル如ク千九百一十二年十二月二十二日ノ連名公書ニ列參セ

フレ日清國皇帝陛下ニ於テ千九百一十二年十二月二十七日ノ勅諭ニ於テ其
ノ全部ヲ納レラレタル所ノ各條件ニ遵應シタルコトヲ確認スル爲メ茲ニ會
合スルモノナリ

第一條

去ル六月九日ノ上諭ニ於テ載瀾王載瀾清國皇帝陛下ノ大使ニ任セ
レ此ノ資格ヲ以テ故滿洲國公使男爵「フオン、ク、ア、ン、ク、ア、ン」閣下
ノ清國皇帝陛下及清國政府協情ノ意ヲ獨逸國皇帝陛下ニ致スヘキコトヲ命
セラレタリ

第二條

清國政府ハ放男爵「フオン、ク、ア、ン、ク、ア、ン」閣下唐殺ノ地點ニ於テ死者ノ官位ニ
適合シ且羅劊殺、獨逸語清國語ヲ以テ右殺害ニ關シテ清國皇帝陛下ノ惋惜ヲ
表スルノ銘誌ヲ有スル紀念碑ヲ建設スヘキコトヲ聲明シタリ
清國全權委員閣下ハ去ル七月二十二日ノ會簡ニ於テ以テ道路全權ノ慶坊
ヲ該地點ニ建設スルコト及去ル六月二十五日ヨリ其ノ工事ニ著手シタルコ
トヲ獨逸國全權委員閣下ニ通知シタリ

第三條

千九百一十二年二月十三日及二十一日ノ各上諭(附屬書第四號、第五號、第六號)ヲ以テ外國政府
及外國臣民ニ對スル非企及罪惡ノ首犯者ニ左ノ刑罰ヲ科シタリ
端郡王載漪及輔國公載瀾ハ斬監候ニ處セラレタリ而シテ若皇帝ニ於テ之ニ
恩典ヲ加ヘ死ヲ免カレシムヘントノ叙慮アルトキハ之ヲ新疆ニ遠謫シテ永
久禁錮ニ處シ何等減刑ノ恩典ヲ加フルコト無カルヘキ旨約定セラレタリ

莊親王載勳、都察院左都御史英年及刑部尚書趙舒翹ハ自盡ノ刑ニ處セラレ
タリ

山西巡撫統贊、禮部尚書徐秀及前刑部左侍郎徐承煜ハ死刑ニ處セラレタリ
吏部尚書協辦大學士剛毅、大學士徐桐及前四川總督李秉衡ハ官位追奪ヲ宣
告セラレタリ

千九百一十二年二月十三日ノ上諭(附屬書第七號)ヲ以テ昨年ニ於ケル最モ憎ムヘキ國際
公法違反ノ行爲ニ反對シ之カ爲ニ生命ヲ奪ハレタル兵部尚書徐用儀、戶部
尚書立山、吏部左侍郎許景澄、內閣學士聯元及太常寺卿袁昶ノ官位ヲ復セラ
レタリ

莊親王ハ千九百一十二年二月二十一日英年及趙舒翹ハ二十四日ニ自殺シ載瀾ハ
二十二日發奏及徐承煜ハ二十六日ニ死刑ヲ執行セラレタリ

甘肅提督董福祥ハ後日ヲ待テ其ノ刑罰ヲ確定スヘキモノトシテ先ツ二月十
三日ノ上諭ヲ以テ其ノ官職ヲ奪ハレタリ

千九百一十二年四月二十九日及八月十九日ノ各上諭ヲ以テ昨夏夏季ニ於ケル非
企及罪惡ノ有罪者ト認メタル地方官吏ニ各自相當ノ刑罰ヲ科セラレタリ

第二條

千九百一一年八月十九日ノ上諭...

第三條

故日本國公使館書記生杉山氏ノ虐殺ニ對シ...

第四條

清國政府ハ外國若ハ各國共同墓地ニ...

第五條

清國ハ兵器彈藥及專ラ兵器彈藥ノ製造ニ...

第六條

清國皇帝陛下ハ千九百一一年五月二十九日...

(甲) 此ノ四億五千萬兩ハ左ニ示スカ...

- 一海關兩ハ 三〇五五
一海關兩ハ 三五九五
一海關兩ハ 三〇五五
一海關兩ハ 三五九五
一海關兩ハ 三〇五五
一海關兩ハ 三五九五

官報 第五五四八號 明治三十四年十二月二十八日

(三)

清國ハ右金貨債額ニ年四分ノ利子ヲ附シ...

(乙) 公債支拂ハ左記ノ方法ニ依リ上海ニ...

(丙) 清國政府ハ北京駐劄公使ニ債金總額...

(丁) 債券ノ支拂ニ充テタル財源ヨリ生スル...

(戊) 債券ノ擔保ニ供セル財源ヲ列舉ス...

第一 新稅關ノ收入ヲ抵當トシ...

第二 鹽稅ノ收入總額但シ從來外國債ノ擔保...

此ノ稅率引上ハ本議定書調印ノ日附ヨリ...

七五九

第一 從價ニテ徵收シ來ル輸入税ハ爲シ得ル限り且成ルヘク速ニ從量
 税ニ改定スヘキモノトス此ノ改定ハ左ノ如クスヘシ即チ千八百九十七年
 千八百九十八年及千八百九十九年ノ三箇年間に於ケル各商品陸上當時ノ
 平均價格按テ算シ輸入税及雜費ヲ差除キタル市價ヲ以テ基礎ト
 ス但シ右改定ノ結了ヲ見ルニ至ル迄ノ間ハ從價ニテ徵收スルコト
 第二 白河及黃浦江ノ水路ハ清國ノ經費分擔ヲ以テ之ヲ改良スルコト

第七條

清國政府ハ各國公使館所在ノ區域ヲ以テ特ニ各國公使館ノ使用ニ充テ且全
 然公使館警察權ノ下ニ屬セシメタルモノト認メ該區域内ニ於テハ清國人ニ
 住居ノ權ヲ與ヘス且之ヲ防禦ノ狀態ニ置クヲ得ルコトヲ承諾シタリ此ノ區
 域ノ境界ハ別紙圖面附屬書第一ニ示ス如ク定メラレタリ即

西方ハ 一三三二四五線

北方ハ 五六七八九十線

東方ハ 一ケツテレル街ノ十一、十二線

南方ハ 健輻城壁ノ南址ニ循ヒ城壕ニ沿フテ畫シタル十二、一線

清國ハ千九百一年一月十六日ノ書簡ニ添附シタル議定書ヲ以テ各國カ其ノ
 公使館防禦ノ爲ニ公使館所在區域内ニ常置護衛兵ヲ置クノ權利ヲ認メタリ

第八條

清國政府ハ大沽砲臺並ニ北京ト海濱間ノ自由交通ヲ阻礙シ得ヘキ諸砲臺ヲ
 削平セシムルコトヲ承諾シタリ而シテ右ニ關スル處置ハ實施セラレタリ

第九條

清國政府ハ千九百一年一月十六日ノ書簡ニ添附シタル議定書ヲ以テ各國カ
 首都海濱間ノ自由交通ヲ維持セムカ爲ニ相互ノ協議ヲ以テ決定スヘキ各地
 點ヲ占領スルノ權利ヲ認メタリ即チ各國ノ占領スル地點ハ黃村 郎房 楊
 村 天津軍糧城 塘沽 蘆臺 唐山 灤州 昌黎 秦王島 及山海關トス

第十條

清國政府ハ二箇年間地方ノ各市府ニ左記ノ上諭ヲ揭示公布スルコトヲ約諾
 シタリ

(甲) 排外的團體ニ加入スルコトヲ永久ニ禁止シ犯ス者ヲ死刑ニ處スル

旨ヲ記載シタル千九百一年二月一日ノ上諭附屬書第一

(乙) 有罪者ニ科シタル刑名ヲ列舉シタル千九百一年二月十三日、二月

二十一日、四月二十九日及八月十九日ノ上諭

(丙) 外國人カ虐殺セラレ若ハ虐待セラレタル各市府ニ於テ科擧ヲ停止

スル千九百一年八月十九日ノ上諭

(丁) 總督巡撫及各省各地方ノ官吏ハ各其ノ管轄内ニ於ケル秩序ニ對シ

テ職責ヲ有スヘク且排外的紛擾ノ再發並ニ其ノ他條約違反ノ事アルニ當

リ直ニ之ヲ鎮定セス又ハ其ノ犯罪者ヲ處罰セサル場合ニハ該官吏ハ直ニ

罷免セラレハ且新官職ニ任命セラレ若ハ新名譽ヲ享受スルコト能ハサ

ルヘキ旨ヲ宣言シタル千九百一年二月一日ノ上諭附屬書第一
 以上ノ上諭ハ全帝國内ニ漸次揭示セラレタリ

第十一條

清國政府ハ外國政府カ有用ト認ムル通商及航海條約ノ修正並ニ通商上ノ關
 係ヲ便利ナラシムル爲メ其ノ他ノ通商事項ニ關シ商議スヘキコトヲ約諾シ
 タリ

清國政府ハ償金ニ關スル第六條中ノ規定ニ基キ今ヨリ左記ノ如ク白河及黃
 浦江水路ノ改良ニ協力スルコトヲ約諾シタリ

(甲) 千八百九十八年清國政府ノ協同ヲ以テ創始セラレタル白河航路ノ
 改良工事ハ各國委員ノ管理ヲ下ニ再興セラレタリ天津ニ於ケル行政ノ清
 國政府ニ返還セラレタル上ハ清國政府ハ直ニ自己ノ代表者ヲ該委員ニ加
 フルコトヲ得ヘク且工事ノ維持費トシテ毎年六萬兩ヲ支出スヘシ

(乙) 黃浦江更正及其水路改良工事ノ指揮監督ヲ掌ルヘキ水路局ヲ設置
 ス

該局ハ上海ノ海路貿易ニ於ケル清國政府ノ利益ト外國人ノ利益トヲ代表
 スル委員ヲ以テ組織ス經營ノ事業及一體ノ事務ニ必要ナル費用ハ最初二
 十箇年間に毎年四十六萬兩ト見積リ清國政府ト關係者タル外國人トニ於
 テ各其ノ半額ヲ支出スヘシ水路局ノ組織、職權及收入等ニ關スル細則ハ
 附屬書中ニ之ヲ記載ス附屬書第一

第十二條

千九百一年七月二十四日ノ上諭附屬書第一ヲ以テ列國ノ指定シタル旨趣ニ因
 リ外交事務衙門タル總理衙門ヲ改革セラレタリ即總理衙門ヲ外務部ト改メ
 テ他ノ六部ノ上位ニ置クコトヲ爲シ而シテ又前記ノ上諭ヲ以テ外務部ノ主
 要ナル官吏ヲ任命セラレタリ

第十三條

外國代表者ノ謁見ニ關スル宮廷ノ禮式ニ關シテモ亦既ニ商定ヲ經タリ此ノ
 件ニ關スル清國全權委員ノ書簡數通アリ別紙覽書ニ其ノ要點ヲ摘載ス附屬書第一

終リニ前記ノ各官言及列國全權委員ヨリ發シタル附屬文書ニ關シテハ佛文
 ヲ以テ憑ト爲スコトヲ特ニ約定ス

斯ノ如ク清國政府ハ列國ノ満足スル如ク千九百一年十二月二十二日ノ連名公
 書ニ列舉セラレタル各條件ニ遵應シタルヲ以テ列國ハ千九百一年夏季ノ發獲
 ヲ再發生シタル狀態ノ終止ニ至ラムコトヲ清國ノ希望ヲ承允シタリ之ニ因

テ列國全權委員ハ第七條ニ記載シタル公使館護衛兵ヲ除キ千九百一年九月
 十七日ヲ以テ北京ヨリ全然列國軍隊ヲ撤退シ又第九條ニ記載シタル地點ヲ

除キ同年九月二十二日ヲ以テ直隸省ヨリ撤兵スヘキコトヲ其ノ各自ノ政府
 ノ名ヲ以テ茲ニ宣言ス

本長終議定書ハ同文十二通ヲ作り各締約國全權委員之ニ署名シ列國全權委員ニ一通宛ヲ交付シ清國全權委員ニ一通ヲ交付ス
千九百一十一年九月七日北京ニ於テ

- ア、ム、チ、カ、ン(署名)
- ニ、ム、チ、カ、ン(署名)
- シ、ニ、ウ、ス、タ、ン(署名)
- ベ、ー、セ、ー、ド、コ、ロ、ガ、ン(署名)
- マ、フ、リ、エ、ー、ダ、ブ、リ、ニ、ロ、ウ、ク、ヒ、ル(署名)
- ボ、ウ(署名)
- ア、ー、ネ、ス、ト、サ、ト、ウ(署名)
- サ、ル、ウ、ア、ゴ、ラ、ッ、シ、(署名)
- 小、村、壽、太、郎(署名)
- エ、フ、エ、ム、ク、ノ、ー、ル(署名)
- エ、ム、ド、ギ、ー、ル(署名)
- 李、鴻、章(署名)

附屬書第一號(千九百一十一年十二月二十七日上諭)

國寶

光緒二十六年十一月六日 旨ヲ奉ス奕劻及李鴻章ノ電文ハ閱悉セリ奏スル所ノ十二箇條ノ大綱ハ直ニ照允スヘシ此ヲ欽メヨ

光緒二十六年十一月二十四日

附屬書第二號(千九百一十一年六月九日上諭)
醇親王載澄ヲ頭等專使大臣トシテ獨逸國ニ前往シ敬謹命ヲ行ハシメ前内閣學士張翼副都統廕昌ハ何レモ隨同前往シテ一切ニ參贊スルヲ命ス此ヲ欽メヨ

附屬書第三號(千九百一十一年七月二十二日清國全權大臣ヨリ獨逸國公使ヘノ來簡)

以查辦致啓上候陳者本年五月二日附費簡ヲ以テ進名公書第一條ニ載明シテ爾故獨逸國大臣被害ノ場所ニ銘誌ノ碑ヲ建立スルコトニ關シ御照會之趣致了承候右ニ付テハ章京瑞良及侯選道聯芳ニ於テ奉派辦理シ既ニ其ノ設計等ニ關シ本衙門ニ向ツテ度度商議ノ折柄再々照會ヲ以テ右被害ノ場所ニ大理石ヲ用井其ノ幅崇文門大街ヲ滿タスヘキ牌坊一座ヲ建立セシコトヲ希望スルモ材料ノ轉運困難ニシテ工事ニ許多ノ時日ヲ費スヘキニ因リ別ニ法ヲ設

官報 第五五四八號 明治三十四年十二月二十八日(第三種郵便物認可)

ケ他處ニ現在セル牌樓ヲ被害地點ニ移立スルカ又ハ新ニ建立スルカ若ハ舊來ノモノヲ流用スルカハ何レモ本國ノ裁決ヲ請フヘキヲ以テ本大臣ハ政府ノ意向ヲ電詢セン處茲ニ回諭ヲ奉スルニ獨逸國大皇帝ノ敕應ニテハ新ニ牌坊一座ヲ設立シ大街ニ滿タスヘシトアリ自ラ割切ナルニ依リ迅速ニ妥辨シ以テ即刻起工ニ便セラレシコトヲ請フ旨御申越相成候ニ付本大臣ハ直ニ之ニ遵照シテ辦理方前顯章京等ニ訓令ニ及ヒ候處既ニ五月十日ヨリ工事ニ著手シ先ツ地基ヲ築キタルモ山ヲ開キ石ヲ鑿リ且材料ヲ運搬スルニハ何レモ時日ヲ要ス乍去只管工人ヲ督飭シ力ヲ盡シ妥速辦理スヘキ旨復申有之候ニ依リ尙一切ノ工事ニ付テハ時時稟商スヘキ旨訓令及置候此段回答得貨意候敬具

光緒二十七年六月七日

附屬書第四號(千九百一十一年二月十二日上諭)

京師五月ヨリ以來拳匪亂ヲ倡ヘ鮮ヲ友邦ニ開ケリ現ニ奕劻及李鴻章ハ各國使臣ト共ニ京ニ在テ和ヲ議シ大綱ノ草約ハ既ニ畫押セシメテ始ラ追思スレハ實ニ諸王大臣ノ昏瞶無知得張賊虐ニ因ル深ク邪術ヲ信シ朝廷ヲ挾制シ拳匪ヲ勦辦セシメントスル上諭ニハ抗シテ遵行セス反テ拳匪ヲ縱信シ安ニ攻戰ヲ行ヒ以テ邪焰大ニ張リ數萬ノ匪徒ヲ肘腋ノ下ニ聚メ勢逼ムヘカラサルヲ致ス又函莽ノ將卒ニ主令ヲ使館ヲ圍攻シ竟ニ數月ノ間ニ奇禍ヲ釀成シ社稷ヲ陪危シ陵廟ヲ震驚シ地方ヲ蹂躪シ生民ヲ塗炭ニス朕ト皇太后トノ危險ナリシ情形ハ言狀スルニ堪ヘス今ニ至リ痛心疾首悲憤交々深シ該諸王大臣邪術ヲ信シ匪ヲ縱テ上ハ宗社ヲ危クシ下ハ黎元ニ禍ス自ラ如何ノ罪ニ該當スルカヲ問ヘ前ニ既ニ兩回諭旨ヲ下セシモ尙法ヲ輕クシテ情ノ重ク奉テ敵フニ足ラサルヲ覺シ故ニ更ニ其等差ヲ分別シ加フルニ懲處ヲ以テスヘシ既ニ革職シタル莊親王載勛ハ拳匪ヲ縱容シ使館ヲ圍攻シ違ニ條約違背ノ告示ヲ出シ又輕シク匪徒ノ言ヲ信シ多人ヲ枉殺シ實ニ愚暴冥頑ニ屬スルニ由リ自盡ヲ命シ署左都御史葛寶華ヲシテ前往檢視セシム既革職郡王載漪ハ諸王貝勒ニ倡率シ輕シク拳匪ヲ信シ妄言戰ヲ主トシ鮮端ヲ肇ムヲ致ス其ノ罪實ニ難シ難シ又降級シテ他官ニ調用シタル輔國公載瀾ハ載勛ニ隨同シ安ニ條約違背ノ告示ヲ出セリ其ノ罪ニ由リ亦官爵ヲ革去スヘキ答ナルモ惟懿親ニ屬スルヲ念ヒ特ニ恩ヲ加ヘ新疆省ニ發往シ永遠ニ監禁セシムル爲メ先ツ員ヲ派シ看管セシム既革職巡撫毓賢ハ前ニ山東巡撫ノ任ニ在リシ時妄ニ拳匪ノ邪術ヲ信シ今ニ至ルマテ之ヲ稱譽シ以テ諸王大臣カ其ノ煽惑ヲ受クルヲ致ス山西巡撫ノ任ニ在ルニ及ヒ又致士ト教民ヲ多人ヲ戕害シ最モ昏瞶兇殘ニシテ罪魁且禍首タルニ屬スルニ由リ前ニ既ニ革職ニ發遣セシメタリ計ルニ今ハ甘肅ニ行キシテ前旨ヲ傳ヘ直ニ法ヲ正スラ命シ按察使何福瑩ヲシテ行刑ヲ檢視セシム前協辦大學士吏部尙書剛毅ハ拳匪ニ袒庇シ巨禍ヲ釀成シ且條約違背ノ告示ニ同意シテ之ヲ出セリ本來彼ハ重典ニ處セザルモ答ナルモ現ニ既ニ病死セシヲ以テ原官ヲ追奪シ直ニ革職ヲ命ス又革職留

任ノ甘肅提督董福祥ハ兵ヲ統ヘテ入衛セシメテ拘ハラス紀律ヲ嚴ニセズ又交
涉ヲ請ヒテ奉憲商議使館ヲ圍攻セシムル前驅草賊王等ノ指使ニ係ルニ雖究ニ
其ノ首ヲ難ク難ク本末重テ難クナリモ猶ク其ノ甘肅ニ在テ平素務職
ヲ著ハシ回回兵士漢人トニ親服セラルルヲ思ヒ格外ニ寬ニ從ヒ直ニ革職
ヲ行ヒ降調セシムル都察院左都御史英年ハ職勳カ擅ニ條約違背ノ告示ヲ預ス
ニ對シテハ實テ罪重シムルヲ以テ其ノ情尙宥スヘキモ未ダ能ク力爭ハス不
ニ其ノ咎ヲ辭シ難キニ由リ恩ヲ加ヘ革職ヲ命シ斬監候トス又革職留任刑
部尙書趙舒翹ハ平日尙外交ヲ嫉視スルノ意ナク前ニ李鴻章ヲ查辨セシ時モ亦
庇縱ノ詞ナカリシモ究ニ章率ニシテ誤ヲ貽スニ屬スルニ由リ恩ヲ加ヘ革職
ヲ命シ斬監候トス英年ト趙舒翹トハ何レモ先ヲ陝西省ニ在テ監禁セシム又
大學士徐桐ト降調前任四川總督李秉衡トハ何レモ既ニ難ニ殉ヒ死去シタル
モ人ノ口實ヲ貽スニ由リ何レモ革職ヲ命シ且郵典ヲ撤銷セシム今回ノ旨ヲ
降シテ成シタルモハ快シテ朝廷ノ本意ニアラス朕カ禍首ノ諸人ヲ懲辦シ輕
シテ縱スナキニトテ諒スルナラン即天下ノ臣民モ亦此ノ案ヲ觀望重大ナル
ニ曉然トスル此ヲ欽メヨ

附屬書第五號(千九百一一年一月十二日上諭)
禮部尙書啓秀ト前刑部左侍郎徐成煜トハ先ツ革職ヲ命シ奕劻及李鴻章ヲ
テ其ノ犯罪ノ確據ヲ查明シ直ニ奏明ヲ行ハシム此ヲ欽メヨ

附屬書第六號(千九百一一年二月二十一日上諭)
光緒二十七年正月三日內閣ハ左ノ上諭ヲ奉ス
今回ノ案件ニ關スル首禍ノ諸臣ハ昨已ニ分別シテ嚴ニ懲辦ヲ行ハシムル旨
ヲ降セシ處茲ニ奕劻及李鴻章ノ電奏ニ據ルニ各國全權大臣ヨリ尙加重スヘ
シト照會セシニ因リ酌奪ヲ懇請ストノ趣ナリ職勳ハ既ニ自盡ヲ期ヒ職責ハ
已ニ直ニ法ヲ正スヲ命シ何レモ各員ヲ派シ前往シテ檢視セシム此ノ餘職
滿職滿ハ何レモ斬監候ト定メタルモ其ノ誼懲親ニ屬スルヲ念ヒ特ニ恩ヲ加
ヘ極恐ナル新疆ニ發往シ永遠監禁セシムル爲メ即日員ヲ派シ押解起程セシ
ム剛毅ノ情罪ハ較シ重シ斬立決ト定メタルモ已ニ病死セシヲ以テ之ヲ免ス
英年ト趙舒翹トハ昨已ニ斬監候ト定メタルモ直ニ自盡セシムル爲メ陝西巡
撫岑春煊ヲ派シ前往シテ檢視セシム啓秀ト徐承煜トハ力メテ李鴻章ヲ庇ヒ專
ラ洋人ト難ヲ爲セル旨各國ヨリ指稱セシニ因リ昨已ニ革職トシタルモ奕劻
及李鴻章ニ命シ各國ニ照會シテ之ヲ交回シ直ニ法ヲ正ス爲メ刑部尙書ヲ派
シテ檢視セシム徐桐ハ參匪ヲ輕信シ銀ヲ大局ニ貽シ李秉衡ハ好ムテ高論ヲ
爲シ固執ニシテ禍ヲ醸シタルニ由リ何レモ斬監候ト定メタルモ難ニ臨ミ自
盡セシヲ念ヒ已ニ革職シテ其ノ郵典ヲ撤銷セシム以テ再議ヲ免ス首禍諸人
ノ犯シタル罪狀ハ前旨内ニ逐一明白ニ聲敘セリ此ヲ欽メヨ

附屬書第七號(千九百一一年二月二十三日上諭)
本年五月間拳匪亂ヲ倡ヘ勢日ニ盛張ナリ朝廷ハ勦滅機共ニ難キヲ以テ皇
次臣下ヲ召見シ二是ニ折衷セシト期セシ處兵部尙書徐用錕戶部尙書立山
吏部左侍郎許景澄內閣學士譚元大等皆御食起リ朕カ一再諮詢セシニ
詞意兩可ニ涉リシヲ以テ首禍ノ諸臣ハ懲ニ難ニ乘シテ詭陷シ交ト奏シテ
勅シ以テ其身死罪ニ罹ルヲ致シタルモ徐用錕等ハ盡力年ヲ平日常務事
件ヲ辦理モ亦能ク和衷シテ勞績ヲ著ハシタルヲ念ヒ直ニ恩ヲ加ヘ徐用錕
立山許景澄譚元大等何レモ原官ニ復スルヲ命シ吏部ニ知ラシムヘシ此ヲ
欽メヨ

附屬書第八號(千九百一一年八月十九日上諭)
光緒二十七年七月六日內閣ハ左ノ上諭ヲ奉ス
本日奕劻及李鴻章ヨリ各國ニ於テ滋事ノ地方ハ五箇年間文武ノ考試ヲ停止
スル事ヲ議定セル趣ヲ具奏セル奏摺中順天太原地方ノ鄉試ハ仍舊ニ停止ス
ヘシ云云トアリ其ノ附屬書ニ列記セル山西省ノ太原府忻州太谷縣大同府
汾州府孝義縣曲沃縣太谷縣河津縣岳陽縣朔平府文水縣壽陽縣平陽府
長子縣高平縣澤州府潞州府蒲州府絳州府歸化城綏遠城河東省ノ南陽府光州
浙江省ノ湖州府直隸省ノ北京順天府保定府永清縣天津府順德府望都縣
獲鹿縣新安縣通州武邑縣景州獲平縣東三省ノ盛京甲子縣遼山子慶街
北林子呼蘭城陝西省ノ甯夏州湖南省ノ衡州府等ノ地方均シテ應ニ文武ノ
考試ヲ停止スルコト五年各省總督巡撫學政ニ著シテ遵照辦理シ告示ヲ出シ
テ曉諭セシムヘシ此ヲ欽メヨ

附屬書第九號(千九百一一年八月十九日內閣全權大臣ヨリ帝國公使ヘテ來簡)
以書翰致意上候陳者五月三日西安軍機處ヨリ左ノ來電ニ接シ候
旨ヲ奉ス戶部右侍郎那桐ニ頭品頂戴ヲ賞給シ專使大臣トシテ大日本國ニ
前往シ敬謹命ヲ行ハシム此ヲ欽メヨ
右御承知相成度此段照會得貴意候散具
光緒二十七年五月四日
附屬書第十號
北京附近ニ於テ汚穢セラレタル墓地表

英國 墓地 一箇所
佛國 墓地 一箇所
露國 墓地 一箇所
合 計 七箇所
附屬書第十一號(千九百一一年八月二十五日上諭)
七月十二日左ノ上諭ヲ奉ス
各省將軍總督巡撫及各關監督ハ先ツ二箇年間都テ外國ノ軍器彈藥及專
軍器彈藥ノ製造ニ供スル器械及材料ハ一切之ヲ購入シ國內ニ輸入スルヲ
サス此ノ旨該部ニ於テ知道スヘシ此ヲ欽メヨ

(三三)

テ3點ニ達ス

3點ハ公使館街(東交民巷)ニ連續スル道路ノ北側ニ在リテ2點ヨリ來ル境界線ト公使館街北側ノ延長線トノ交叉スル處ニ在リ

此ノ點ヨリ境界線ハ公使館街ノ北側ニ沿ヒ(城壁ノ外圍及其ノ角ニ附イテ測定シ)六百四十一呎半ヲ延長ヲ以テ4點ニ達ス

4點ハ公使館街ノ北部ニ沿ヒテ測定シ「ゲーメリ」街(兵部街)ノ角(西南)ヨリ四百四十六呎ノ處ニ在リ

此ノ點ヨリ境界線ハ(建築物ノ外圍及其ノ角ニ附イテ測定シ)二千五百五十二呎ノ延長ヲ以テ概シテ北ニ向フ但シ現存建築物ニ沿ヒ其ノ間隙ニ在リテハ「ゲーメリ」街左側大體ノ道筋ニ並行線ヲ畫シ以テ「ゲーメリ」街ト皇城外廓トヲ通スル門ノ西側ヨリ西へ百五十七呎ノ處即チ5點ニ達ス

5點ハ「ゲーメリ」街街端ニ在ル門ノ西側ヨリ百五十七呎ヲ隔テ皇城外廓南城壁ノ南面ニ在リ此ノ點ヨリ境界線ハ城壁ニ沿ヒ殆ト正東ニ向ヒ千二百八十八呎ノ距離ヲ以テ6點ニ達ス

6點ハ皇城外廓ノ東南角ニ在リ

此ノ點ヨリ境界線ハ城壁ニ沿ヒ殆ト正北ニ向ヒ直線ノ測定ニ依リ二百八十八呎ノ距離ヲ以テ7點ニ達ス

7點ハ外廓ノ東北角ニ在リ

此ノ點ヨリ境界線ハ殆ト正東ニ向ヒ六百八十二呎ノ距離ヲ以テ8點ニ達ス

8點ハ皇城城壁ノ東南角トス

此ノ點ヨリ境界線ハ城壁ニ沿ヒ殆ト正北ニ向ヒ六十五呎ノ距離ヲ以テ9點ニ至ル

9點ハ皇城城壁東南角ヨリ六十五呎ノ處ニ在リ

此ノ點ヨリ境界線ハ正東ニ向ヒ三千十呎ノ延長ヲ以テ10點ニ達ス

10點ハ「ゲーテル」街ノ西側ニテ同街ト伊太利街(長安街)トノ交叉角ヨリ三百呎ノ處ニ在リ

此ノ點ヨリ境界線ハ「ゲーテル」街ノ西面ニ沿ヒ殆ト正南ニ向ヒ11點ニ達ス

11點ハ驪韜街南城壁ノ上ニテ即崇文門ノ西北角ニ在リ

此ノ處ヨリ境界線ハ城壁ニ沿ヒ且崇文門西方ノ馬道ヲ取込ミ12點ニ達ス

12點ハ崇文門樓ヨリ西へ百呎ヲ隔テ城壁ノ上ニ在リ

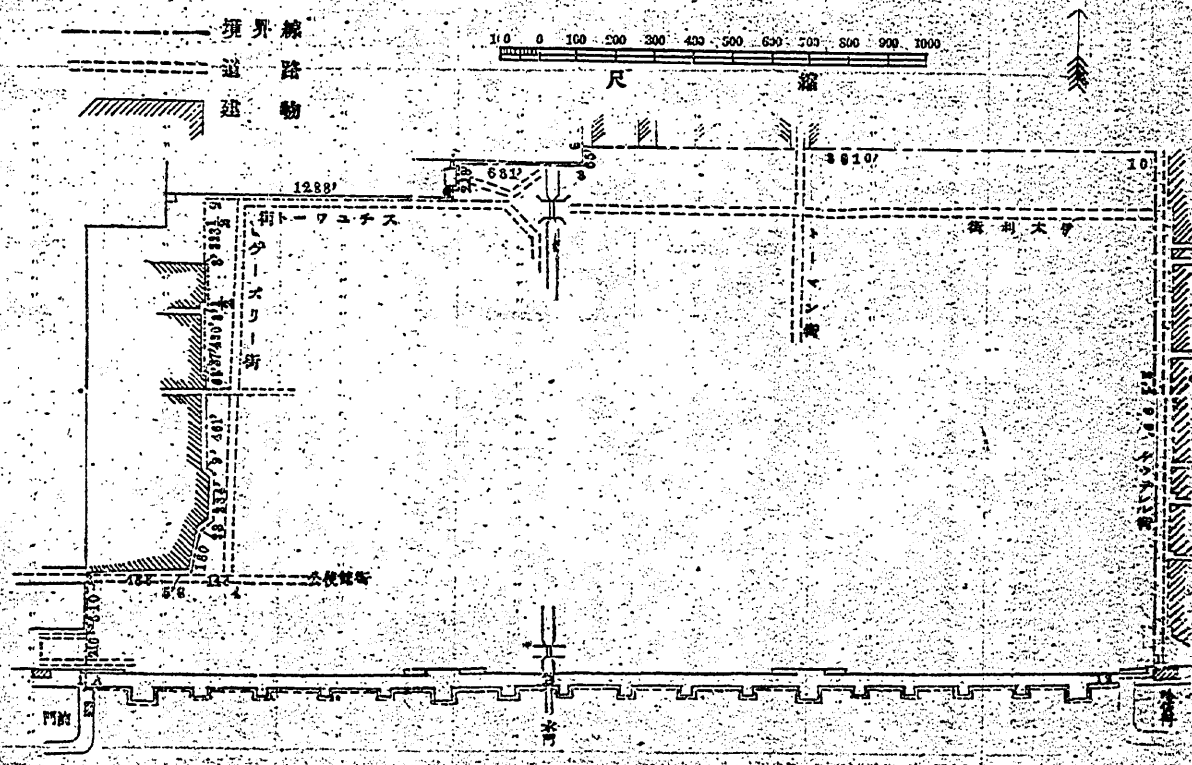
此ノ點ヨリ境界線ハ城壁ノ南面ニ沿ヒ圖ニ示ス如ク城際ヲ取込ミテ進ミ1點ニ接合ス圖中目標トシテ示セル諸點左ノ如シ

A 驪韜街城壁頂上ノ北側ニ沿ヒテ東ニ向ケ測定シ正陽門樓ヨリ百七呎ニ於ケル點トス

B 驪韜街城壁北側ノ頂上ニテ恰モ流水渠ヲ縱斷セル中央線上ニ於ケル點トス

C 崇文門樓ノ西北角トス

北 京 公 使 館 境 界



第七條 任期中缺員ヲ生シタルトキハ後任者ノ任期ハ其ノ前任者ノ任期如
 何ニ從ヒ一箇年又ハ三箇年トス
 第八條 黃浦江水路局ハ一箇年ノ任期ヲ以テ局員中ヨリ議長及副議長ヲ選
 任スヘシ
 議長ノ選舉ニ於テ多數ノ成立セザルトキハ筆頭領事ニ對シ其ノ表決ヲ以
 テ多數ヲ成立セシムルコトヲ請求スヘシ
 第九條 議長不在ノ場合ニハ副議長之ニ代ルヘシ
 議長副議長共ニ不在ナルトキハ出席委員ニ於テ臨時議長ヲ互選スヘシ
 第十條 總テ該局ノ會議ニ於テ表決可否同數ナルトキハ議長ノ表決ヲ以テ
 之ヲ決ス

第十一條 局員四名以上ノ出席アルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス
 第十二條 黃浦江水路局ハ事業ノ實行及規則ノ施行上必要ナリト認ムル役
 員及雇員ヲ任命シ其ノ俸給給料實費等ヲ決定シ其ノ使用ニ供セラシメ
 ル資金中ヨリ之ヲ支拂フヘシ又該員等ニ適用スヘキ規則ヲ制定シ各般ノ
 措置ヲ爲シ且隨意ニ之ヲ解任スルコトヲ得
 第十三條 黃浦江水路局ハ運輸交通上ノ取締ヲ爲メ必要ナル措置ヲ決定ス
 第十四條 吳淞ノ外國雜居地ヲ通過スル河川及其ノ他ノ黃浦江ニ注グ河川
 留地並ニ吳淞ノ外國雜居地ヲ通過スル河川及其ノ他ノ黃浦江ニ注グ河川
 等一切水路ノ河口ヨリ上流ニ至ル迄ノ距離以內ニ於ケル船舶繫留ニ
 要スル機具ノ裝置及船舶繫留ニ關スル規定等モ亦該局ノ決定ニ屬ス
 第十五條 黃浦江水路局ハ黃浦江ニ於ケル個人ノ所有ニ屬スル掘附ケ船
 舶繫留機具ヲ收用シ公共ノ繫留組織ヲ設定スルノ權ヲ有ス

第十六條 第十三條ニ記載シタル區域ニ於ケル河川ノ浚深埠頭棧橋ノ築
 造等ノ如キ各事業ノ實行及橋船家船ノ設置ニ就テハ該局ノ許可ヲ受クル
 ヲ要ス該局ハ之ヲ拒否スルヲ得
 第十七條 黃浦江水路局ハ黃浦江及前記諸河川ニ於ケル一切ノ障害物ヲ除
 去セシメ又若シ必要アルトキハ該障害物除去ノ爲ニ生スル費用ヲ責任
 者ヨリ徵收スルノ全權ヲ有ス
 第十八條 黃浦江水路局ハ黃浦江ノ前記區域內及第十三條ニ記載シタル諸
 河川ニ於ケル浮燈浮標立標陸標標燈ノ處分及水路航行ノ安全ニ必要ナル
 其ノ他ノ陸上裝置機具ノ處分權ヲ有ス但シ燈臺ハ之ヲ除キ從前ノ通り
 千八百五十八年ノ英清條約第三十二條ノ規定ニ依ル

第十九條 黃浦江水路局ハ事業ノ爲ニ徵收シタル一切ノ資金ニ關スル收納
 及任拂ヲ掌リ且當該官廳トノ協議ニ依リ賦課金ノ取立及規則ノ適用ヲ確
 實ナラシムルニ適當ナル一切ノ處置ヲ執ルヘシ
 第二十條 黃浦江水路局ハ長及其ノ屬僚ヲ任命ス此ノ職員ハ黃浦江水路局
 ニ付與セザレバ權利限內ニ於テ第三條ニ掲げキキ水清江ノ區域內ニ
 其ノ職務ヲ執行スヘシ
 第二十一條 黃浦江水路局ハ其ノ規則及命令ノ施行ヲ確實ナラシムル爲メ
 警察及監視事務ニ關スル職司ヲ繼續スルノ權ヲ有ス
 第二十二條 黃浦江水路局ハ上海水先案内揚子江下流水先案内業ノ指揮
 監督權ヲ有ス上海ニ赴クヘキ船舶ヲ免許水先案内者ノ免狀ハ事該局
 ニ於テ交付シ該局ハ隨意ニ之ヲ處置スルヲ得

第二十三條 黃浦江水路局ハ其ノ規則違犯者アル場合ニハ左ノ如ク犯則者
 ニ對シ起訴スヘシ即外國人ニ對シテハ其ノ所屬國領事又ハ當該司法官廳
 ニ起訴シ清國人又ハ清國ニ代表者ナキ政府ノ所屬外國人ハ外國人一名ノ
 立會フヘキ會審裁判所ニ起訴スヘシ
 第二十四條 黃浦江水路局ニ對スル一切ノ訴訟ハ上海領事團裁判所ニ提出
 スヘシ黃浦江水路局ハ其ノ書記ニ依リテ訴訟代理セラルヘシ
 第二十五條 黃浦江水路局員及該局ノ使用ニ係ル職員ハ該局ノ決議行爲
 契約又ハ經費ニ對シ一切ノ個人的責任ヲ負ハス但シ其ノ決議行爲契約
 並ニ經費ハ該局又ハ其ノ支部ノ職權ニ基キ又ハ其ノ命令ニ從ヒ該局發布
 ノ規則ヲ制定シ又ハ施行スルコトニ關スルモノタルヲ要ス

第二十六條 本附屬書第十三條ニ記載シタル規定ノ外黃浦江水路局ハ其ノ
 權限內ニ於テ必要ナル一切ノ命令規則ヲ發シ且違犯ノ場合ニ對スル罰金
 ヲ定ムルノ權ヲ有ス
 第二十七條 第二十六條ニ記載シタル命令規則ハ領事團ノ認可ヲ經ルヲ要
 ス但シ命令規則案ヲ提出後三箇月ヲ經過スルモ領事團力異議ヲ述べス若
 ハ修正ヲ提出セザルトキハ該命令案又ハ規則案ハ認可セラレ且實施スヘ
 キモノト見做サルヘシ

第二十八條 黃浦江水路局ハ黃浦江ノ改良保存ニ關スル事業ノ實行ニ必要
 ナル一切ノ地所ヲ獲得シ且之ヲ處置スルノ權ヲ有ス若シ之カ爲メ地所ヲ買
 收スルヲ有益ナリト認ムルトキハ上海洋涇濱北部外國雜居地土地規則
 第六條(イ)項ノ規定ニ從フ此ノ場合ニ於テハ左ノ如ク組織シタル委員ヲ
 シテ其ノ代價ヲ定メシムヘシ

第一 土地所有者所屬ノ官廳ニ於テ選定シタル者一名
 第二 黃浦江水路局ニ於テ選定シタル者一名
 第三 筆頭領事ニ於テ選定シタル者一名
 第二十九條 沿岸地所有者ハ前記ノ水路ニ改良ヲ加フル爲メ施シタル埋立
 工事ニ因リ其ノ所有地ノ前面ニ生シタル土地ニ對シ優先權ヲ有スルモノ
 トス此ノ土地獲得ノ代價ハ第二十八條ニ於ケルト同一ノ方法ヲ以テ組織
 シタル委員ヲシテ之ヲ定メシムヘシ

第三十條 黃浦江水路局ハ事業ノ爲ニ徵收シタル一切ノ資金ニ關スル收納
 及任拂ヲ掌リ且當該官廳トノ協議ニ依リ賦課金ノ取立及規則ノ適用ヲ確

第三十條 黃浦江水路局ノ收入ハ左ノ諸賦課金ヨリ成立スルモノトス

一 佛蘭西居留地及各國居留地ニ於ケル建築アリ又ハ建築ナキ地所ノ課稅價格ノ千分の一ニ相當スル年賦課金

二 江南機器局ノ下方ノ境界ヨリ機器局灣ノ入口ニ向ツテ延長スル一線ヲ起點トシテ黃浦江ノ揚子江ニ注ク所ニ至ル迄ノ間ニ於ケル黃浦江沿岸ノ土地ニ對スル前同様ノ賦課金此ノ土地ノ課稅價格ハ第二十八條ニ記載シタル委員ヲシテ之ヲ定ムルヘシ

三 上海吳淞又ハ其ノ他ノ黃浦江諸港ニ出入スル五百五十噸以上ノ支那形ニ非サル船舶ニ對シ一噸ニ付銀五分ノ賦課金

四 五百五十噸及五百五十噸以下ノ支那形ニ非サル船舶ハ前記賦課金ノ四分ノ一ヲ交拂フヘシ此ノ賦課金ハ船舶ノ出入幾回ナルニ拘ラス四箇月ニ唯一回之ヲ取立ルモノトス揚子江ヲ航行スル支那形ニ非サル船舶ニシテ

一 航行免許證ヲ受取ル目的ヲ以テ吳淞ニ停留スルモノハ該港ニ出入ノ際商行爲ニ從事セサル限りハ前記賦課金ヲ免除ス但シ吳淞ニ於テ飲料水及食品ヲ購入スルハ自由タルヘシ

二 上海吳淞又ハ其ノ他ノ黃浦江諸港ニ於テ稅關ニ届出スル各商品ニ對スル千分の一ノ賦課金

三 各關係外國人ノ釀出金額ニ均シキ清國政府ノ年釀金

第三十一條 第三十條ニ列舉シタル賦課金ハ左ノ官廳ヲ經由シテ之ヲ徵收スルモノトス

(一) 項ノ賦課金ハ各居留地會ヲ經由ス

(二) 項ノ賦課金ハ清國ニ代表者アル政府ノ所屬國民ニ係ルトキハ其ノ國領事ヲ經由シ清國人又ハ清國ニ代表者ナキ政府ノ所屬國民ニ係ルトキハ道臺ヲ經由ス

(三) 項(一)ノ賦課金ハ新設關ヲ經由ス

第三十二條 黃浦江水路局ノ歲入總額ヲ以テ事業經營ノ爲メ借入シタル資金ノ元利償還 既成事業ノ維持及一般ノ經費ニ充ツルニ足ラサルトキハ該局ハ航海業 建築アリ又建築ナキ土地及貿易ニ對シ同一ノ割合ヲ以テ各種ノ賦課金ヲ增加シ必要ト認定セラレタル額ニ達セシムルノ權ヲ有ス此ノ未必ノ增加ハ第三十條(ホ)項ニ記載シタル清國政府ノ釀出金額ニモ同一ノ割合ヲ以テ之ヲ適用ス

第三十三條 黃浦江水路局ハ第三十二條ニ規定シタル賦課金増加ノ必要ハ豫メ之ヲ南洋大臣及上海領事團ニ通告スルヲ要ス而シテ上海領事團ノ認可ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ實行スルヲ得ス

第三十四條 黃浦江水路局ハ年度計算ノ終結後六箇月以内ニ前十二箇月間ノ一般ノ狀況及收支ニ關スル詳細ノ報告ヲ南洋大臣及上海領事團ニ提出スルヘシ此ノ報告ハ公示スヘキモノトス

第三十五條 精算公示シタル收支ノ計算ニ依リ收入ノ支出ニ超過スルコト

證明セラレタルトキハ上海領事團下黃浦江水路局ノ協議ニ依リ第三十條ニ記載シタル賦課金ヲ同一ノ割合ヲ以テ減額ス

此ノ未必減額ハ第三十條(ホ)項ニ記載シタル清國政府ノ釀出金額ニモ之ヲ適用ス

第三十六條 初三年ノ期限滿チタルトキハ各締約國ハ本附屬書ニ記載セル條項中改正ヲ要スルモノヤ共同審査スヘシ尙右ノ同一ノ條件ニ依リ三年毎ニ改正ヲ行フヲ得

第三十七條 黃浦江水路局ノ命令ハ第十三條ニ記載シタル區域内ニ於テハ上海領事團ノ認可ヲ經タルモノニ限リ各外國人ニ對シテ效力ヲ有ス

一千九百一十一年九月七日北京ニ於テ

附屬書第十八號(一千九百一十一年七月二十四日)上諭

光緒二十七年六月九日內閣ハ左ノ上諭ヲ奉ス

從來宜ヲ設ク職ヲ分ツハ惟時ニ依リ宜ヲ制スルニ在リタリ今ヤ重テ和議ヲ定ムルノ時ニ際ス邦交ヲ以テ重ト爲シ一切信ヲ講シ睦ヲ修スルハ尤モ人所

得テ理スルニ賴ル從前總理各國事務衙門ヲ設立シテ交涉ヲ辦理シ歷年所

アリト雖惟派スル所ノ王大臣等ハ多ク兼攝ニ係リ心ヲ兼守ニ難ク且能ハス

自ラ應ニ特ニ專員ヲ設ケ以テ責成ヲ專ニスヘシ總理各國事務衙門ノ改メテ

外務部ト爲シ六部ノ前ニ班列セシメ和碩慶親王奕劻ヲ總理事務部

事務ト爲シ體仁閣大學士王文韶ヲ會辦外務部大臣ト爲シ工部尚書蔣滄海ヲ

外務部尙書ニ轉補シテ會辦大臣ト爲シ大德寺卿徐壽朋 候補三品京堂聯芳

外務部左右侍郎ヲ補授ス該部ニ設クヘキ一切ノ司員 定數 選補ノ章程

及各長官并各官ニハ如何ニ俸祿ヲ優給スヘキヤノ一事ハ政務處大臣ヲシテ

吏部ニ會同シ妥速ニ奏議シテ具奏セシムルコトヲ欽メ

附屬書第十九號

謁見ニ付遵守スヘキ儀式覽書

第一 清國皇帝陛下ヨリ外交官團體又ハ各國代表者各別ニ賜ハルヘキ儀

見ハ乾正宮正殿内ニ於テスルモノトス

第二 右謁見ノ爲メ參内又ハ退出ノ際各國代表者ハ景運門外マテ其ノ儀

ニ乘リ該門ニテ轎ヲ降サ乾清門階前マテ小轎(轎)ニ乘リ該所ヨリ乾清宮

内陛下ノ御前マテ步行スルモノトス

退出ノ時モ亦各國代表者ハ右參内ノ時ト同一ノ方式ヲ以テ其ノ居館ニ歸ル

モノトス

第三 各國代表者各其ノ信任狀又ハ其ノ國元首ノ親翰ヲ清國皇帝陛下ニ

捧呈セントスルトキハ皇帝ハ親王乘用ノモノニ均シキ飾及黃纓ヲ具ヘタル

轎ヲ該代表者ノ居館ニ遣シテ之ヲ迎ヘ其ノ謁館スルトキ亦同一ノ方法ヲ以

テ之ヲ送アルヘシ又其ノ往復ニ隨從セシムル爲メ儀仗兵一隊ヲ該代表者ノ

ヲ携帶スル間ハ陛下ノ御前ニ至ルマデノ宮城各門ハ其ノ中央出入口ヲ通過

右謁見後退出ノ時ハ其ノ通行セントスル各門ニ關シテハ北京宮廷ニ於テ外

國代表者ノ謁見ニ付既定シタル慣例ニ遵フモノトス

第五 皇帝ハ外國代表者ヨリ捧呈セントスル前掲ノ書狀ヲ直接ニ其ノ手

中ニ收受セラレルモノトス

第六 皇帝ニ於テ各國代表者ヲ招宴セララルトキハ其ノ宴席ヲ大内ノ殿

中ニ設ケラルヘク且陛下ノ親臨セラレヘキモノトス

第七 要スルニ各國代表者ニ關シテ清國ノ採用スヘキ儀式ハ如何ナル場合

ニ於テモ關係諸國ノ清國トノ完全ナル同等ニ基由セサルコトナク又毫モ相

互ノ威嚇ヲ傷クルコトナカルヘキモノトス

○非難滿期 非難宮城縣志田郡長正七位林通ハ本月二十五日非難滿期ト爲レリ

○官吏發着 妻二千葉縣下新羅橋場ハ出張ノ山口主税局長健輔鎮守府へ差遣ノ侍從武官村田

ハ一昨二十六日就モ歸京セリ

○華族改名 男爵長壽ハ其連下改名セリ

○官吏死去 島根縣八束郡長正六位勳五等根岸千夫ハ一昨二十六日死去セリ

○特許局審決 登録商標權利確認ニ關スル審判請求ニ對シ本月十七日農商務

省特許局ニ於テ左ノ如ク審決セリ

第五百十六號 審決書

東京市神田區柳原川岸二十二號地醫藥製造及

販賣業 小林 富次郎

同市京橋區本町九町目七番地 特許代理人 稻木 繁太郎

靜岡縣濱名郡美川村横須賀三十五番地化粧品 製造販賣業 金鐘堂合名會社

被請求人 右代表者 木俣 順平

吉田 榮次郎

被請求人代理 右吉田榮次郎親權者 吉田 茂次郎

東京市京橋區五郎兵衛町二十番地 特許代理人 伊藤 利三郎

發請人代理人 東京市京橋區五郎兵衛町二十番地 特許代理人 伊藤 利三郎

右小林富次郎ヨリ金鐘堂合名會社ニ對シ第一一九八九號登録商標權利ノ確認ニ關シテ

請來人代理申請ニ要スル商標ニ使用スルモノハ明治三十二年十月第一號ノ如ク子母

成ノ模範圖形欄内ニ左向セル一頭ノ獅子ノ模範圖形欄外ニ右向セル一頭ノ獅子ノ模範

圖形欄内ニ左向セル一頭ノ獅子ノ模範圖形欄外ニ右向セル一頭ノ獅子ノ模範圖形欄内

ニ記シ其左右ニ「SUPERIOR QUALITY」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「MANUFACTURED BY T. KOHAYASHI」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」

ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」ト記シ其左右ニ「LION」